

1 学校教育目標	
自ら学び 心豊かに たくましく 基本方針「生徒一人ひとりを大切にする教育の実現」	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
(1) 生徒一人ひとりに 基礎基本を身につけさせる。 (2) 生徒一人ひとりの よさや可能性を見出し伸ばす。 (3) 生徒一人ひとりの 命・健康を守る。	成果 ○生徒の「あいさつ」や「生命を大切にする心」が評価された。 課題 ●学力向上が課題である。教員の授業力向上や授業改善を進めていく事が重要である。

4 評価表 ※評価基準 [A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	- 学校経営目標、方針 - 校務分掌組織 - 適所への適材配置 - 職員会議等の運営 - 予算の執行・決算、監査等	A	○校長の学校経営方針を具現化しようと教職員それぞれの職責を果たしていた。また職員会議が有効に機能し、組織運営が円滑に行われた。
	②研究・研修	- 研究組織、計画、実施 - 校内研修の推進 - 授業改善への取組 - 校外研修会への参加 - 人材育成	B	○計画的に校内研修を行うことができた。教科会などで授業改善などについても研修を進める事ができた。 ●校内授業研究会や指導者を招いての研修会などの設定があってもよかった。
	③保健管理・安全管理	- 保健計画、安全計画 - 環境衛生の管理 - 健康観察、安全点検 - 緊急事態発生時の対応 - 危機管理マニュアルの作成・活用	B	○大きな事故なく、日々の健康・衛生管理を進めることができた。 ●安全点検が徹底できなかったため、来年度は担当者への申し送りを徹底する。
	④情報管理・施設設備管理	- 個人情報の管理、保護 - 施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報の管理や学校外への個人情報持ち出し簿の管理を徹底できた。 ●移動タブレットやPC室の管理について課題が残った。
	⑤地域との連携 開かれた学校	- 学校情報の発信 - 学校公開の実施 - 学校運営協議会、学校評議員制度の活用 - 地域、校種間連携 - PTA活動の活性化	A	○PTAとの共同事業である朝のあいさつ運動や防犯パトロールなど、行事等での連携を滞りなく行うことができた。学校のHPも定期的に更新することや連絡メールも適宜配信できた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	- 目指す子ども像の共有 15年間を通じた教育課程の編成 - 一貫教育推進のための組織づくり	A	○幼保小中間で連絡調整を綿密に行えた。校区の研究発表会も成果を残して終えることができた。 ●それぞれの学校・園において、共通理解をさらに進めていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じた教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	B	○各教職員が学校教育目標実現に向けて教育活動を推進した。幼稚園・保育園・小学校ともカリキュラムのすり合わせを行うことができた。 ●時数調整で一部課題が残った。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○教科会を開き、それぞれの教科の課題解決や新学習指導要領への準備を進めることができた。 ●教科会をさらに充実し、生徒への評価方法周知を徹底していく。
	③道德教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○学年全体での道徳の授業や担任・副担任が交代でクラスローテーション授業などを行うことができた。 ●地域・家庭との連携を推進していく。
	④特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動	B	○学級活動・学校行事ともに生徒の頑張る姿が見られた。 ●生徒がさらに主体的に活躍できるような指導が必要である。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○各学年とも年間指導計画に基づいて活動を行うことができた。 ●地域の人材や物的資源の活用をさらに進める必要がある。
	⑥生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	B	○毎週の生徒指導部会を機能させ、迅速な対応や先んじた生徒指導を進めた。 ●指導内容に学年間や教員間の差異が見られた。
	⑦キャリア教育	・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動	B	○職場体験活動は地域のご協力をいただき、たいへん有意義な活動となった。 ●全学年においてさらに計画的に進める必要がある。
	⑧特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	B	○通常学級担当の教員も交流や指導に関わる場面があった。 ●教育相談部会からの具体的な発信・動きを増やす必要性がある。
	⑨学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○全体計画・活動計画に基づき、学校司書と連携しながら購入・紹介・貸出ができた。 ○学校図書館の整備により、読書に親しむ生徒が多く見られた。
	⑩情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○ICTの活用を行っている授業が増えてきた。 ●ICT機器の管理を徹底する必要がある。
	⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○各学年、人権作文や人権標語などを中心に人権感覚の涵養を図った。 ●人権のDVD・人権感覚育成プログラムの活用を年間指導計画に位置付けていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	PTAとの連携したあいさつ運動	委員会を中心にあいさつ運動を行い、生徒同士やPTAの方々との交流を通して、学校全体の雰囲気醸成を行っている。	B	○大きな声でさわやかなあいさつが徐々に増えてきた。一層の向上を図っていく。 ●あいさつ運動の場所を検討し、工夫をする。
	ボランティア活動	緑化・清掃・配達ボランティアなど、奉仕活動に力を入れている。	B	○各ボランティア活動に子どもたちは意欲的に取り組んでいた。 ●彩の国ボランティア体験プログラムへの参加を呼び掛けるとともに、ボランティアの校務分掌化を検討する。
	両中スマホルールの制定と実践	独自のスマホルールを設定し、呼びかけを行うとともに、校区の小学校ともスマホルールで連携している。	B	○小学校にも浸透し、両中校区としての取り組みが認識されてきている。 ●保護者の危機意識をさらに高めるとともに、定期的なアンケートや情報提供などの実践後の指導をさらに進める。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

ほとんどの項目でBの「おおむね達成できている」と言える。学校教育目標・基本方針・重点目標を意識し、全職員で職務遂行した成果である。

生徒のアンケートからは、15項目中11の項目で、8割以上達成できていることが分かる。しかし、「発表を求められる場面ではすすんで自分の意見を述べた」・「家庭学習にしっかり取り組んだ」・「ボランティアなど何事にも進んで取り組んだ」・「日頃のあいさつ、ごみ拾いなど地域の中でも力を示した」の項目で3～4割の生徒が達成できていないと答えている。主体性や自己肯定感のさらなる育成が重要である。

保護者のアンケートからは、「子どもに学力をつけている」・「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」で3～4割の保護者が当てはまらないとしている。学力向上や授業改善をさらに進める事が重要である。

学校評議員の方々からは、落ち着いた授業や活動に取り組んでいるとの評価をいただいた。今回の課題を次年度に活かしていきたい。

6 次年度の改善策

- ①幼保小中一貫教育をさらに推進しながら、校区の課題である「基礎学力の向上」と「自己肯定感の育成」への手立てを幼保小中で協力して打ち出していく。
- ②市学調のフォローアップシート・コバトンのびのびシート等を活用し、一人一人の資質・能力の育成を図る。そのために教職員で市学調のフォローアップシート・コバトンのびのびシート等の研修を行うなどして実効性を高めていく。
- ③日々の授業・生徒会活動・特別活動などで生徒主体の活動を増やし、自主性や積極性、表現力を育成する。そのために教職員同士で課題とその手立ての共有を図る。